

vol.
62
2025
spring



Osaka Kyoiku
University
Public Information
Magazine

大阪教育大学広報誌

Ten You

天遊

Students Now!

卒業生CATCH!

自衛隊 音楽隊 座談会

大教生のノートのとり方と
勉強のオトモ調査!!

附属学校園ウォッチ

今号の表紙学生

TOPICS

特集
1

～産官学連携による共創拠点～
みらい教育共創館

特集
2

**天王寺キャンパス
四大行事**

～産官学連携による共創拠点～

みらい教育共創館

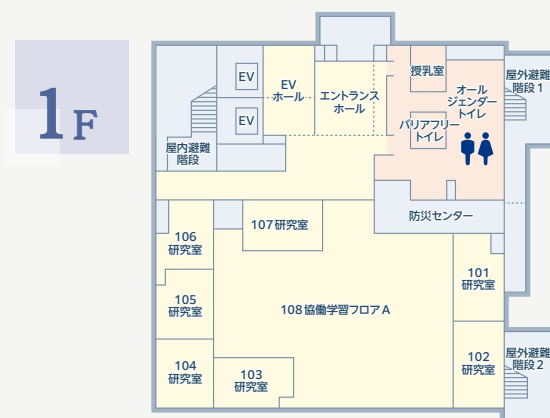
2024年4月に「みらい教育共創館」を
大阪市との協働により、天王寺キャンパスに
オープンしました。
本施設の特徴について紹介します！

フロアムービーは
こちら！



1F・2F 協働学習フロア

大学院生を中心として、さまざまな人が集い学ぶスペースです。



エントランスホール



オールジェンダートイレ

「多様性を認める社会の実現をめざし、誰もが安心して快適に利用できる」をコンセプトとしたトイレです。



協働学習フロア

概要

みらい教育共創館は10階建てで、1～5階は「大阪教育大学みらい教育共創拠点」、6～10階は「大阪市総合教育センター」となっています。

コンセプト

「日本の教育課題に対応し、新たな未来教育を創造する産官学連携による共創拠点」

3F・4F 未来型教室フロア

さまざまな授業形態に対応した電子黒板や、大型プロジェクター等の先端機器を導入した教室です。



部屋番号	席数	主な付帯設備
301	40	電子黒板(100インチ) 1台
302	60	大型プロジェクター(180インチ) 2台 電子黒板(100インチ) 1台 ハイスペックノートPC 60台 (レノボ・ジャパン合同会社 およびインテル株式会社提供 ノートPC [Lenovo ThinkPad])
401	40	電子黒板(100インチ) 1台
402	80	電子黒板(100インチ) 2台



未来型教室



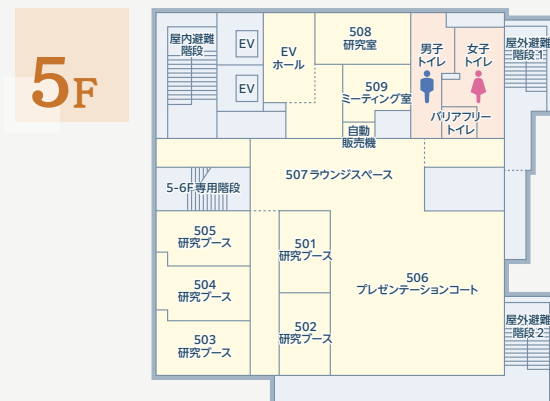
電子黒板



ハイスペックノートPC

5F 産官学連携拠点フロア

産官学連携により、教育課題の解決や教育・教員養成の高度化に取り組む拠点です。



プレゼンテーションコート

大型プロジェクターを備えており、セミナーやシンポジウムを開催しています。



オープンラボ

本学と5つの企業(2025年3月現在)が協働して、教育課題などの解決に関する事業に取り組むベースです。

オープンラボ入居企業



Message

みらい教育共創館は、教育委員会・学校現場・行政・産業界・大学等が、それぞれ抱える課題(弱み)や資源(強み)を一堂に集積し、産官学連携のもとで大阪の教育課題の解決に取り組み、成果を全国に発信・展開することを通じて、大阪から日本の教育の未来を変えていく、そのシンボリックな共創拠点になることが期待されています。このことを具現化すべく、みらい教育共創館では、最先端のICT機器とフレキシブルな室内環境を整備しています。これらを幅広くご活用いただくことで、新しい時代に相応しい学びのあり方を追求し、場所的な制約を超えた多様な人々が共創・発信できる場としての役割も発揮してまいりたいと考えています。

みらい教育共創拠点 拠点長 水野 治久 副学長



学生におすすめポイントを聞いてみた！

天王寺キャンパス 四大行事

天王寺キャンパスでは、通称「四大行事」を学生の自治のもと実施しています。

そこで、学生にそれぞれの行事のおすすめポイントを聞いてみました！

1 新入生・編入生歓迎行事

実行委員を中心に天王寺キャンパス全体を巻き込んで、新入生・編入生の入学を歓迎し、大学に慣れてもらうための企画！



おすすめポイント

青木 七海さん
2024年度 新入生編入生歓迎運動
実行委員会委員長

先輩との関わりを通して、講義などの情報はもちろん、夜間ならではの生活リズムやアルバイトの話を聞けます。また同級生との交友も深めて、新入生・編入生が最高の学生生活のスタートダッシュを決めることができるようなサポートがあることがおすすめポイントです！

2 夏祭り

夏祭りは、天王寺キャンパスの中庭で色んな企画を行います。最後にはグラウンドで、みんなで円になり踊ったりもします！



おすすめポイント

堀 美月さん
2023年度 夏祭り
実行委員会委員長

夏の醍醐味といえる祭りを、みんなで作れるというところがおすすめポイントです。出店や有志ステージなどもあるので、実行委員だけではなく、実行委員以外の学生やサークルも含め、みんなで1つの行事を作り上げています。大教生以外の人も呼ぶことができるので、みんなで一夜限りの夏祭りを楽しみましょう！

3 大学祭

3日間かけて行う秋のお祭りです。さまざまな企画を通じて、教員になる上で必要なスキルの習得もできる行事！



おすすめポイント

五十嵐 尚さん
2024年度 大学祭
実行委員会委員長

大学祭の魅力はなんといっても連日違う企画があるということ！1日目は大学の施設を満遍なく使ったレクリエーションをするフリー企画、2日目は近隣の小学校に声をかけて、レクリエーションを楽しんでもらう子どもフェスタ企画、3日目は各回生や各サークルからの出店や、有志出演者を募ってのステージ発表などの後夜祭企画！近隣の方々や、他大学の学生、そして小学生もきてくれるので教員をめざす私たちにとっては最高のイベントです！

4 天王寺キャンパス卒業式

在学生が卒業生を送り出すイベントです。送辞、答辞、感謝状贈呈などを行います。送辞では、在学生による合唱などが行われます！



おすすめポイント

宿西 美伽さん
2023年度 天王寺キャンパス卒業式
実行委員会委員長

在学生は卒業生を、卒業生は在学生を思って準備し、天王寺キャンパス全体で卒業式を作るところがおすすめポイントです。準備期間から本番まで、天王寺キャンパスですごせて良かった！と改めて思えます。当日はあたたかい時間をみんなで共有できるのもこの行事の魅力です。



AKITO
FUNATSU

みんなが 快適に過ごせる 天王寺キャンパスに

Students Now!

スチューデント ナウ

初等教育教員養成課程
小学校教育専攻 夜間5年コース 3年生

船津 彬登さん (兵庫県立夢野台高等学校卒)

船津彬登さんは、天王寺キャンパス学生自治団体「学生局」の局長を務めています。学生局は、教育実習などで使用する物品を保管している施設の管理、アルバイト紹介や教職相談会などの大学生生活に役立つ企画の立案・運営、大学と学生をつなぐ窓口役という三つの活動を行っています。「局長として、学生局がこれまで培ってきた実績と信頼を生かして、天王寺キャンパスの学生が快適な大学生生活を送れるような環境づくりをめざしています」と、力強く語ります。

学生局は学生の代表という立場のため、入局するには学生間の選挙で当選する必要があります。「中学・高校時代から生徒会にとっても興味があったのですが、部活との両立が難しくして入れませんでした。しかし、大学にもそうした自治団体があると知り、どうすれば入れるのかを先輩に聞いて立候補しました」と語ります。当選後は、目まぐるしく活動に取り組めます。「一年目は教職相談会という企画の責任者を任されて、先輩に助けをもらいながらやり切ることができました。二年目に

活動を続ける中で、前の局長の『学生の意見を聞く姿勢』を見て、学生に寄り添う学生局であり続けたいと思い、三年目で自分も局長になりました」

局長になってからは、局員を支える側として特に後輩との関わりを大事にしており、「僕はこれまで先輩にたくさん助けられてきたので、今度は後輩に頼られる存在になれるように頑張っています。後輩が文書の作成を頑張っていたり、自分から意見を出したりするなどの成長を感じることがやりがいです」。天王寺キャンパスは夜間に通う学生が多いですが、昼間コースもあるので、今後は昼間に通う学生の意見も集めることができる組織をめざします。

ここまで学生のために活動できるのも、天王寺キャンパスの人たちの温かさに触れることが多いからだと言います。「正直に言うと、入学するまでは世間一般で考えられているようなキャンパスライフを過ごせるというイメージはまったくありませんでした。しかし実際は真逆で、入学の日には駅前で先輩が出迎えてくれたうえに、新入生歓迎行事や大学祭をはじめ同回生以外とも関わる機会が多いので、楽しい大学生活を過ごせています」

そんな天王寺キャンパスの人たちは、船津さんの将来像にも影響を与えています。「将来、小学校の先生になりたいと思っているのですが、授業展開や発問の仕方の工夫など、みんなから学ぶ

ことが多くあります。また、会ったときには『おはよう』、何かあったら『ありがとう』という言葉が日常に溢れていて、それが当たり前に出てくる環境がとても居心地が良く、この価値観を先生になっても大事にしていきたいです。理想の先生像について聞くと、「児童に寄り添って、支え続ける先生になりたいというのはずっと思っています。また、学校現場で授業や教員の仕事を見学する観察実習に行った際、授業をきちんと受けている児童が多いクラスほど、学級経営がうまくいっていると感じたので、児童の興味を引き出す授業を作れる先生になりたいです」と意気込みます。

学生局の局長として学生の声を集め、ニーズに沿った企画を運営している経験と、周りの人たちの温かさを感じ取れる感性をもって船津さんであれば、きっと自身の描く理想の先生になってくれるでしょう。



卒業生 CATCH!

フリースクールを通して子どもの権利を保障する



困難を抱えた子どもの居場所づくり

木脇さん、不登校や学校を中退した10代の子どもの対象に、学校とは違う形での学びの場、居場所を提供する「フリースクールはらいふ」を運営しています。「フリースクールは学校のような設置基準がなく、それぞれのスクールが多様な取り組みを行っています。『はらいふ』では、不登校のことを気にせず楽しく過ごせる居場所になること、この先の進路と一緒に見つめることを中心にサポートを行っています。加えて、『はらいふ』は自然豊かな場所ならではの活動も盛んです。「近くにきれいな川があるので、外で遊びたいという子どもが多く、夏は川遊びをしたり、冬は焚火をしたりしています」と子どもたちの様子について笑顔で話します。

過去の経験と支援のきっかけ

高校を中退した経験がある木脇さんは、「当時は社会から切り離されたような感覚があり、とてもしんどい時期を過ごしました」と振り返ります。この時から、学校に行くことができないというだけで、つらい思いをする子どもを少しでも減らしたいと思うようになりました。「当時は小学校の先生になりたかったので、高卒認定を取って、小学校

教員の免許が取れる大阪教育大学に進学しました。夜間課程だったので夜は大学に行き、平日の昼はNPO法人で、休日は今の法人の前身となる団体で働いていました。働く中で、中高生の夜の居場所づくり、公立校の特色ある取り組みや海外の教育の視察ツアーなどを行っているうちに、学校の先生になるよりも、学校に行くことができない子どものサポートをしたいと考えるようになりました。卒業後も活動を続けていると、高槻の空き家を社会的に活用しないかと紹介され、まずは「コミュニティハウス」という名前で子ども食堂や地域とのつながりを作るイベントを始めたことが、フリースクール開設のきっかけとなりました。

子どもに自己決定できる環境を

困難を抱えている子どもと接する上で、大事にしていることについて聞くと「どんな教育をするかという以前に、まずはちゃんとご飯を食べているか、健康に楽しく過ごしているかということを重視しています。そこが保証された上で、いろいろな教育を提供していくべきだと考えています」と話します。また木脇さんは、日本の子どもは、まだまだ自分自身で過ごし方や過ごす場所を選ぶ権利が保障されていないと感じているといい、「ここでは

自分のことは自分で決めてもらうことを重視しています。最近はSNSの影響もあってか、何かに挑戦する、一歩踏み出すということをためらう子どもが多くなった気がします。しかし、好きなことは積極的にやってほしいですし、おかしいことにはおかしいとはっきりと言えるようになってほしいです」と、子どもたちが自己決定できる社会をめざして活動しています。

仕事のやりがいと未来の展望

仕事のやりがいは「子どもたちがここに来ることで元気になったり、たくさん話そうになってくれたりといった、ポジティブな変化を近くで見られることです」と笑顔で話します。また、これからの目標について聞くと、もっと支援の幅を広げたいと意気込みます。「現在、『大阪府フリースクール等ネットワーク』の代表もしています。そこでは大阪府のフリースクールなどの団体がネットワークを形成し、学校や行政機関とともに子どもの権利を保障し、福祉を増進することを目的に活動しています。経済的な事情や他の理由も含めて、どのような家庭の子どもでも、フリースクールに通うことが一つの選択肢になるような取り組みを進めていきたいと思っています」

一般社団法人はらいふ 代表理事

き わき れい
木脇 嶺

教育学部 小学校教員養成5年課程 2015年卒

卒業生CATCH!

自衛隊 音楽隊 座談会



陸上自衛隊第1音楽隊
たか はし り お
高橋 理織
教育協働学科 芸術表現専攻
音楽表現コース 2024年卒



陸上自衛隊第15音楽隊
よこ やま あや の
横山 綾乃
教育協働学科 芸術表現専攻
音楽表現コース 2024年卒



陸上自衛隊北部方面音楽隊
さ と う こころ
佐藤 心
教育協働学科 芸術表現専攻
音楽表現コース 2022年卒



音楽隊について

佐藤：8時15分から朝礼があって、その後に仕事が始まります。午前中は個人練習をしたり、合奏練習をしたりします。午後はまた合奏練習をして、次の日に演奏会がある場合はトラックに楽器を積み込んだり、演奏服にアイロンをかけたなりといった準備をして17時に業務が終了します。演奏会がないときは個人練習をしたり、走りに行ったりします。

高橋：音楽隊といえばやはり演奏会ですよね。演奏会では、自分たちで曲の選定、楽器や楽譜の準備をします。さらに、会場のセティングから受付、片付けも全部やります。みんなで一つのものを作っている感覚があり、仲間意識ややりがいを感じられて楽しいです。

横山：ホールに来てもらうよりも、自分たちが街などに行って演奏することが多いですね。たまたま通りすがった人にも聞いてもらえるので、より多くの人に演奏を届けることができて嬉しいです。

佐藤：いろいろな地域に演奏に行けるのも良いところだと思います。僕は北海道に配属されているのですが、同じ北海道の中でも多様な地域があっ

て多くの人と交流できています。基本的にバスで移動をしているのですが、道の駅やサービスエリアに寄るのも楽しみの一つです。

配属されるまで

高橋：音楽隊に配属される人も、別の職種に配属される人も、まずは前期教育という自衛官になるための教育を受けます。前期教育期間中は6時にラッパの音で起きて点呼をして、朝ごはんを食べ、部屋の掃除をします。その後、間稽古というものがあり、自衛隊体操や筋トレをします。それが終わったら課業があり、座学や射撃訓練、ほふく前進などの訓練を受けます。

横山：懐かしいですね。前期教育期間中は、座って勉強をしているかひたすら運動をするかでしたね。



高橋：その前期教育が4月～6月までで、そこから後期教育を受けます。後期教育は、音楽隊に配属される人たちが集まって、合奏など音楽メインの勉強をします。それが10月半ばで終わって、そこからようやく音楽隊員として配属されます。

佐藤：教育期間中といえば、小銃を身体の前で支えながら走るというハイポートが大変だったのを思い出しました。

高橋：最初にハイポートという単語を聞いたとき、カッコいいって思っていたのですが、小銃は重たいし特に坂道がきつかったです。

横山：私もこんなの持って走るのなんて無理と言っていたのですが、体の使い方がわかったらなんとかできるようになりました。そのうえ、ハイポートのおかげで体力がついて楽器が吹きやすくなりました。

音楽隊員になろうと思ったきっかけ

高橋：2回生のときに中部方面音楽隊の方々が大教大の音楽棟ホールで演奏会をしてくれて、そのときに初めて音楽隊という仕事があるのを知りました。寮があるし、食堂でご飯も食べることがで

きるという、生活環境が整ったうえで演奏の仕事ができることにとても魅力を感じました。また、2つ上の先輩が音楽隊に所属していて、活躍している姿を見て、自分もその先輩みたいになりたいと思って入隊を希望しました。

横山：私も高橋さんと同じで、演奏会がきっかけです。久しぶりに生の演奏を聞ける機会と、最初のマーチを聞いたときに、すごく音圧を感じてカッコいいという印象を受けました。音楽隊に入れば自分の好きなことを仕事にでき、いろいろな人に演奏を聞いてもらえる機会があるので、やりたいことと誰かの役に立つという自分の理想がマッチしたので音楽隊に入ろうと思いました。

佐藤：僕もトランペットをずっと演奏してきたので、それを仕事にしたいとは思っていました。また、もう少し勉強したいという気持ちもあったので、まずは大学院に進学しました。大学院に通う中で、音楽隊の説明会があったので参加してみると、高橋さんが言ったように生活環境面が充実している、給与が安定しているという話を聞いて魅力的に思いました。さらに、大教大の同期が音楽隊に入隊していて、楽しいよと教えてくれたのも理由の一つです。

将来の展望

高橋：私が先輩に憧れて入隊したみたいに、誰かが私の演奏や所作を見てそれが活力になるような、そういう振る舞いができる音楽隊員になりたいです。

佐藤：先輩方を見ていると、日頃の振る舞いもカッコいいですね。

横山：私は演奏がうまくなりたいのはもちろんですが、サービスをきちんとこなす音楽隊員になりたいです。体力がなく、だらしない姿を地域の人に見せると、自衛隊自体への不安感が生まれると思います。

高橋：地域の人と一番触れ合えるのは音楽隊なので、音楽隊員がそういう意識をきちんと持って活動するべきですね。私も地域の人と自衛隊をつながられるような隊員になりたいです。

佐藤：自衛隊の他の職種はどうしても活動が見えにくい部分もあるので、自衛隊のイメージを左右しやすいのは音楽隊だと思います。

おすすめポイント

横山：全国に友達ができるのがおすすめポイントです。というのも、入隊したときにはまだ自分がどこで働くかわからなくて、配属のタイミングで初めて知らされます。私は沖縄と言われて最初は驚きましたが、新天地での生活で友達も増えました。

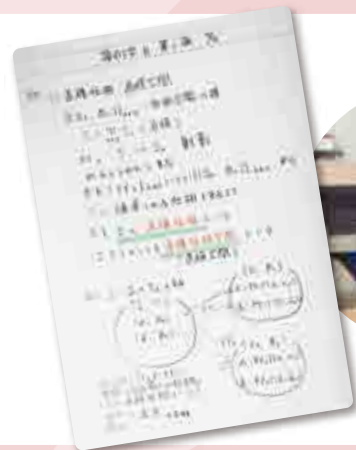
高橋：想像してなかった地域に行けて、いろいろな人と出会えますよね。自分の意志だけでは広げられなかった世界が待っていて楽しいです。

横山：あと沖縄は地域密着型の雰囲気があるので、沖縄の伝統楽器である三線（さんしん）の練習をしたりします。その地域に合わせた技術を身につける機会があるのも良いなと思います。

佐藤：音楽隊でないとできない仕事もたくさんありますよね。僕は去年でいうと、札幌競馬場でファンファーレを演奏しました。これは音楽隊でないとできないものです。また、オーケストラだとあまり自分たちでお客さんのお見送りをしないのですが、音楽隊はお見送りまでします。お見送りしているときにもお客さんの反応がわかるので、それもやりがいに感じます。泣きながら良かったよと言ってくれた方もいて、すごく嬉しかったです。

大教生の ノートのとり方と 勉強のオトモ 調査!!

- ① ノートをとるときに意識していること
- ② 勉強のオトモ
- ③ オトモの魅力



学校教育教員養成課程 小中教育専攻
数学教育コース(2回生)
齋藤 聡二さん

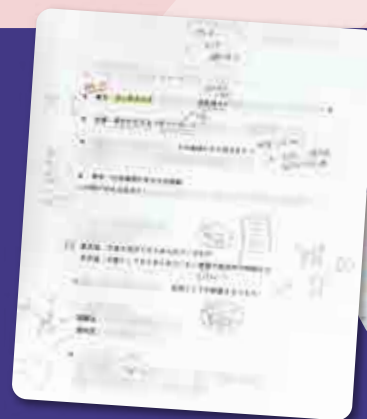
- ① アンダーラインを入れるポイント、色分けなどはすべてのページで共通するように意識しています。また行間を広くすることで見やすくなります!
- ② いちごミルク
- ③ 眠たくなってきたときは、これで少し頭を休ませます。生協ではさまざまなメーカーのいちごミルクが、期間ごとに販売されるので飽きません!

01

02

学校教育教員養成課程 小中教育専攻
社会科教育コース(2回生)
工藤 和佳菜さん

- ① 思い出すきっかけとして、具体例やエピソードをメモしています。また同じ授業でも、内容によっては紙とパソコンを使い分けています!
- ② 携帯音楽プレーヤー
- ③ 音楽を聴きながら勉強するのが好きで、小学生から使っているものを愛用しています。好きな歌手の曲や、母が聴いていた昔の曲を入れています。



03

教育協働学科
教育心理学専攻(2回生)
姜 西茹さん

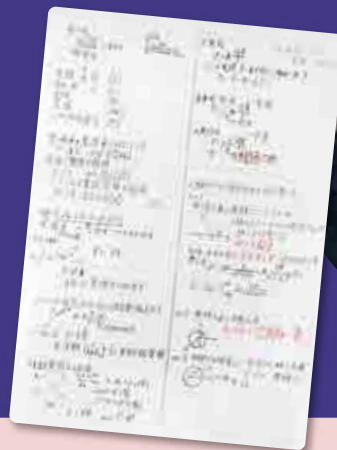
- ① 授業中にとる記録用のノートと、家での復習用のノートをわけています。復習用のノートは設問形式にして、正答率を毎回記録することでテスト勉強に役立てています!
- ② お菓子と飲み物
- ③ 勉強するときに、飲み物があると集中力が持続します。また、チョコレートなどのお菓子を食べながら勉強すると、リラックスしながら勉強できます。



04

教育協働学科 理数情報専攻
自然科学コース(1回生)
加藤 麻央さん 利光 叶望さん

- ① インプット:アウトプット=1:9を理想としています。先生の話聞きこぼさないように、先生が板書にかけると同じぐらいでノートをとるように意識しています。
- ② 時計
- ③ 腕時計、置き時計などの種類は問わないです。時計があることで、何時までに終わらせると決めことができ、効率よく勉強ができます!



大阪教育大学附属学校園
WATCH
ウォッチ

復興庁による出前授業を附属平野中学校で実施

復興庁による東日本大震災に関する出前授業を、10月8日(火)に附属平野中学校で実施し、同校の2年生が受講しました。今回は、日本科学技術振興財団(JSF)の協力を得て、例年実施している授業の一環として実現しました。

授業は、復興庁の山野統括官が講師をつとめ、資料と映像を用いながら、東日本大震災がどのような震災であったかや放射線について、現在の復興状況などの説明を行いました。続いて生徒は、現在の復興状況をいろいろな人に伝えていくために最も効果的な方法を考え、グループで話し合いました。その後、各グループの代表が、話し合った内容を全体に向けて発表しました。最後に、復興庁からお土産として、福島の特産品である梨が贈られました。



山野統括官は「今回の授業は、東日本大震災が起こったことを風化させない、被災地への悪評を払拭することを目的に実施しました。生徒たちは、私

の話をもとに震災について考え、次世代へ伝えていくための方法を発表してくれました。今後機会があれば、東北に足を運んで現状を直接見てもらいたいです」と語りました。

授業を受けた生徒は「東日本大震災は自分たちが生まれた年に起こったことなのであまり詳しくなく、専門の人による授業を受けることができたのはとても良い機会でした。これからの世代に伝えていくために、自分たちに何ができるか考えていきたいです」と感想を述べました。



附属特別支援学校で防火・防災学習を実施

附属特別支援学校で防火・防災学習を、大阪市消防局平野消防署、大阪市平野区役所安全安心まちづくり課、喜連地域連合の協力を受け10月9日(水)に実施しました。

はじめに児童生徒たちは、教室で過ごしているときに地震が発生したという想定で、運動場に避難する訓練を行いました。続いて、武市平野区長、西岡平野消防副署長が挨拶を述べた後、小学部、中学部、高等部に分かれて、煙幕体験、避難所体験、応急手当体験、水消火器・バケツリレー・バケツ消火体験、消防車体験、毛布担架体験、救急救命講習(高等部のみ)、起震車体験に取り組みました。



訓練を見学した平野五校園連合会の坂井会長は「さまざまなブースを

消防や地域の方の協力のもとに展開されており、つながりの大切さを認識しました。子どもたちが積極的に活動に参加しており、楽しみながら体験・学習する様子を見ることができました」と話し、牧之瀬副会長は「学部ごとに設定されたカリキュラムを、子どもたちは消防署員や区役所職員の説明を聞き、そのねらいを意識しながら真剣かつ主体的に取り組んでいました。その姿を拝見し、防災のための学びとなっていることを感じました」と感想を述べました。

また、今回の訓練を参観した青谷PTA会長は「日ごろより災害時の避難訓練等を繰り返し実施しているだけでなく、子どもたちが安全・安心に過ごせるより良い環境づくりをしてくれていると感じました、ありがとうございます」と感謝の言葉を述べました。



天王寺キャンパスってこんなところ!!



今回の表紙に登場してもらったのは
天王寺キャンパスの学生たち。
天王寺キャンパスでの学生生活について
聞いてみました!

初等教育教員養成課程 小学校教育専攻 夜間5年コース 2回生 菊池 夏帆さん(左)	初等教育教員養成課程 小学校教育専攻 夜間5年コース 2回生 青木 七海さん(中央)	初等教育教員養成課程 小学校教育専攻 夜間5年コース 2回生 萩原 美七海さん(右)
--	---	---

天王寺キャンパスでは同学年だけでなく、先輩後輩とも仲良くなれる機会が多くあります。四大行事の新生・編入生歓迎行事、夏祭り、大学祭、天王寺キャンパス卒業式や、サークル活動を通して、たくさんの人たちとの絆が深まり、あっという間に1年が終わってしまうくらい充実した学生生活を送ることができます!

最新のTOPICSは
こちらからご覧ください



01

柏原キャンパス テニスコートを改修



03

第9回ホームカミングデー、 大阪教育大学創基150周年記念式典を 同日開催



02

「令和6年度 奨学金目録授与式」を挙行政



04

「柏原キャンパス未来型教室」 完成披露会を開催



やまお基金(大阪教育大学基金) へのご協力について

本学では財政基盤を長期的に支えるとともに、大学及び附属学校園などにおける学生等への支援、教育研究支援並びに国際交流や社会連携の推進等を図ることを目的に「やまお基金(大阪教育大学基金)」を設置しています。この基金を活用して、教育研究、国際交流、社会連携、教育の高度化、スポーツ・芸術の推進、キャンパス環境整備などの事業を行っています。これらの趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

一口
1000円

クレジットカード等によるインターネットでの
お手続きとなります

●基金の詳細は右のQRコード または 下のURLへ

[https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/
other/foundation/about.html](https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/other/foundation/about.html)



●ご協力いただける場合は上記ページの

「大学基金お申込み」ボタンからお手続きください

▶ 大学基金お申込み

F-REGI 寄付支払い ※所得税等の控除の対象です。

https://kifu.f-regi.com/fc/contribute/osaka_kyoiku

アンケートに答えて 大教大オリジナルグッズをGET!



大教大ボールペン



大教大マフラータオル

プレゼント応募締切

2025年4月30日(水)必着

※当選者の発表は、プレゼントの発送
をもって代えさせていただきます。
※重複での応募は無効とさせていただきます。



アンケートは
こちらから

「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。



今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケート(QRコードを読み取ってご回答ください)にご協力いただいた方の中から、抽選で3名様に**大教大ボールペン&マフラータオルを一色ずつ(色は選べません)**進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、フォームにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。